

家庭用インターネット機器 (WebTV)

▶ 操作性、機能、コンテンツで家庭へのインターネット普及を図るWebTV ◀

1997年12月1日より、日本でも「WebTV」のサービスを開始した。WebTVとは、家庭向けにターゲットを絞ったテレビ用インターネット端末のサービスで、米国では96年9月からサービスを始め、1年半で25万人の加入者を獲得し、家庭向け情報端末の成功モデルとして注目を集めている。

本格的にテレビで楽しめるようになったインターネット

日本では1996～97年の2年間でパソコンの出荷台数が大幅に伸び、インターネット人口も急激に増加した。それに伴い家庭向けのインターネット接続端末として、インターネットテレビがいくつかのメーカーから発売されたが、価格や機能面から販売台数は伸びず、市場に受け入れられなかった。WebTVは、これらのインターネットテレビと異なり、セットトップボックスと呼ぶ端末機器、ソフトウェア、ネットワークの3つからなる新しいサービスだ。家庭にあるテレビと端末をつなぎ、電話回線に接続すれば、すぐにインターネットを利用できる。インターネットを自宅で楽しみたいと考える家族にとって、コスト

写真1 WebTVの端末。キーボードをあわせて5万円台



で情報を引き出せる。おすすめ情報が表示されるので、自分で探さなくても、家庭で役立つ情報やスポーツ情報、エンターテインメント情報に手軽にアクセスできる。

家族で見るからこそ、見やすさ、美しさにもこだわっている。高品位な画像を表示するための専用のASICを端末に搭載することで、フリッカーと呼ばれる画像のちらつきやにじみをなくした。画像圧縮技術やキャッシュの利用により、写真やイラストが入った画面もスピーディーに表示する。

また、インターネット接続中に電話がかかってくると一時的に接続を中断し、電話がきたことを知らせるキャッチホン対応機能や、電子メールが到着すると、LEDが点灯するという細かい配慮もしている。

図1 WebTVホームページ



面でも操作性の面でも、手軽に利用できる。日本でも家庭でのインターネットの楽しみ方のスタイルとして、受け入れられることが期待される。

操作性、見やすさを実現する独自技術

現在の多種多様な情報が利用できるメリットを考えると、家庭にインターネットが普及しないのは、入口のハードルの高さにあると考えられる。インターネットをするために20万円以上のパソコンを買うのは、家庭にとっては高い買い物だ。設定や操作の難しさもネックになっている。マウス操作やキーボード操作にさえ慣れていないパソコンビギナーにとって、ダイヤルアップ接続の設定やオンラインサインアップは、決して簡単なものではない。WebTVは、こうしたハードルを一気に低くする。

家族が使うことを徹底的に考えた端末やソフトウェア、コンテンツを用意することによって、家族みんなで楽しめる。操作は全てリモコンで行えるため、テレビのチャンネルを変える感

新機能のダウンロード、今後の拡張性

WebTVでは、最新技術を盛り込んだ端末機器とソフトウェアを用意するだけでなく、常に最新の状態で使えるように、無料のアップグレードサービスを開始した。テレビ画面の指示に従って進めるだけで、インターネット経由で最新のソフトウェアの機能に更新する。これまでの家庭向けインターネット接続用テレビでは、ソフトウェアは固定化され、日進月歩で進むインターネット技術を利用した最新のWebが見られないという欠点があった。WebTVなら、常に最新の技術を家庭で楽しめる。

さらに、本体にはさまざまな拡張機能に対応する拡張ポートや、EMV互換のICカードスロットなどを内蔵しており、プリンタへの出力やオンラインショッピングのカード決済などにも対応していく予定だ。

家庭向きコンテンツへの期待

WebTVの普及によって、今後はWebTV向けのコンテンツも登場してくることだろう。米国ではWebTV加入者の67%が毎日利用しているという。このように1人でパソコン画面で見るインターネットから、家族で日常的にリビングで見るインターネットへと変われば、受け入れられるコンテンツ市場はさらに多彩な広がりを見せるだろう。

今後は、インターネットのホームページを見ながらテレビ番組を同時に見られる機能など、新サービスの導入も検討していく。インターネットとテレビ放送のシームレスな統合を、WebTVで始めたい。

(間宮義文・ウェブ・ティービー・ネットワークス株式会社
代表取締役社長)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp